

第2回蒲郡市ヘルスケア基本計画策定検討協議会 会議録（要旨）

1. 日時

平成27年10月8日（木）15時から16時15分まで

2. 場所

蒲郡市役所新館5階庁議室

3. 出席者（名簿順、順不同）

（ア）委員

福原直樹委員代理羽田野幸夫氏、河邊義和委員、津下一代委員、小池高弘委員、小澤洋介委員、大槻幹委員、貴田昭和委員、園田俊司委員、濱田公巳委員、井澤勝明委員

（イ）オブザーバ

出村嘉朗氏、岡田守人氏、簗原英治氏、水谷文勇氏、松本康弘氏

（ウ）市・事務局

企画部 大原義文 尾崎弘章

KPMGヘルスケアジャパン 大割慶一、石川雅俊、和田幸子

4. 資料

資料1：蒲郡市ヘルスケア基本計画策定協議会 委員・オブザーバ名簿（改訂）

資料2：蒲郡市ヘルスケア基本計画策定協議会 第2回資料（非公開）

資料3：参考資料 蒲郡市の再生医療に関する取り組みについて（一部非公開）

5. 次第

(ア) 開会

- ・ 本日の議題、議事進行について説明

(イ) 副市長あいさつ

- ・ 本日の協議会までの経緯・趣旨について説明

(ウ) 蒲郡市ヘルスケア基本計画の方向性（案）説明

- ・ 本計画策定受託者である KPMG ヘルスケアジャパン株式会社より、基本計画案について説明【資料 2】
- ・ 基本計画案の方向性
 - ① 蒲郡市ヘルスケア計画の実現を念頭に置き、計画案をとりまとめている。
基本的考え方は以下のとおり
 - ✓ 蒲郡市における急性期から回復期、在宅、予防・健康増進に至るまで、従来以上に連続的かつ統合的なケアを実現するために、ラグーナ未利用地を活用し、現状不足する資源を開発するとともに、既存のヘルスケアインフラと有機的に結合させること
 - ✓ 上記のような統合的なヘルスケアシステムを構築する中で、再生医療等、次世代技術の開発につながるヘルスケア産業振興に貢献すること
- ・ 基本計画の内容
 - ① ラグーナ未利用地について、ヘルスケアモール&ラボゾーンと、住まいゾーンのゾーニングを行う。
 - ② ヘルスケアモール&ラボゾーン
 - ✓ 先端リハビリセンター
急性期病院から退院・転院された方に対し、ロボットの活用によるリハビリや高密度のリハビリを提供。先端リハビリセンターでのリハビリ後は、在宅や後述のヘルスケア機能付きスマート住宅における生活リハビリを継続できるよう、在宅医療、介護、配食、フィットネス等の各種サービス提供により支援する。
 - ✓ プレミアムドック
これまでの人間ドックで主流となっている生活習慣病の早期発見のみならず、アンチエイジングドック、アイドック、ロコモドック等、生活の質に直結する領域における健診や、ドック後の生活改善支援プログラム提供等を含めたプレミアムドックを実施。
 - ✓ フィットネス、レストラン、美容、物販、その他

プレミアムドックの結果等を集積することで、蒲郡市内のヘルスケアシステムの再構築を図る。例えば、生活習慣病（糖尿病等）の予防に資する健診から診療、生活改善までをシームレスにつなぐサービスや健康増進プログラムを開発する。

- ✓ リサーチセンター
 - 保険者向けリサーチ
 - 保険者の持つレセプトデータ、健診データ等を活用しながら、市民の健康状態の把握や、インセンティブを付与するなどしてどのように健康状態の改善を図るか等の研究を行う。
 - 個人向け PHR サービス
個人の健康管理に役立つ **Personal Health Record** の記録サービスや、それを活用した健康教育サービス等を提供
 - 連携サービス
医療機関や介護事業所向けに、医療連携システムや医療介護連携システムを提供し、効率的・効果的サービス提供体制を支援する。
- ✓ 将来的には、上記で蓄積されたデータによる研究活動をベースとして、民間企業向けのリサーチサービスも担う。

③ 住まいゾーン

- ✓ ヘルスケア機能付きスマート住宅
センシング技術、ロボット等による生活支援・健康管理・見守り等の提供、交流拠点設置による市民活動や入居者に対する支援サービス拠点の提供、各種技術の実証研究の場の提供を行う。

④ 上記各事業について、一定の前提に基づく収支案を提示。

⑤ スマート住宅とヘルスケアモール&ラボから成る「まちづくり」を具現化するには、専門家であるデベロッパーとの議論も必要。

⑥ 実証研究の場の提供と集積データの利活用を通じて、企業の次世代医療技術開発の促進に貢献することで、ヘルスケア産業の集積や次世代型ヘルスケアシティの実現を目指す。

(エ) 市からの補足説明

- ・ 再生医療とヘルスケア産業を融合・リンクさせ、次世代型ヘルスケアシティを目指すことを市の目標としている。
- ・ ラグーナ地区においては主に予防・回復という分野の機能を持った施設が提案されているが、蒲郡市民病院が全国で初めていわゆる再生医療新法に基づく特定認定再生委員会の認定を受けたこともあり、市全体としては市民病院、

市内再生医療関係企業と連携して再生医療のまちづくりをしていきたい。そのため、本計画においては予防・回復等のテーマと再生医療のテーマをつなげ、蒲郡地区の新たな特色となる事業を推進したいと考えている。

- ・ 更に、新たなコラボレーションにより、再生医療以外の新しいヘルスケア産業も創出されることを期待している。

(オ) 意見交換（主な意見）

- ・ 厚生労働省における健康寿命延伸政策、経済産業省による健康経営、総務省による ICT、パーソナルレコードの活用等、国のレベルにおいても様々な取り組みが進行中となっている。蒲郡市の本プロジェクトは、これら全てが集約されることになるのではないかと期待している。
- ・ 非常に良い計画だとは思いますが、現状、蒲郡市内では急性期病院からリハビリ・回復期へはスムーズに医療連携が取れている。また、高齢者向け住宅は民間の施設に空きがある状況となっている。このような中、蒲郡市民病院からの退院患者を中心に集患する前提で、蒲郡市だけで考えれば一定規模以上のリハビリ病院や住宅は必要がないと思われるので対象地域をより広域で考えるべきである。対象地域をより広域で考えるべきではないか。
- ・ 蒲郡市は東西に細長い形状のため、商圈が分断されてしまう特徴がある。事業の継続性を考慮すると、より広域での展開を検討すべき。また、既存施設との住み分けは必要。
- ・ 徐々に規模を大きくする、蒲郡市を東三河の拠点として三河エリアや隣接する静岡県等まで含め広域に PR し、広い地域からの集患・集客を図るということは可能ではないか。
- ・ リハビリは進歩しつつあるが、既存のリハビリでは、器具・設備の問題等で集中的なトレーニングが十分できていないケースもある。地域の生活に戻すための集中的リハビリという位置付けで、入院期間は短期間とすることで、広域からの集患、既存医療機関との共存共栄が図れるのではないか。
- ・ プレミアムドックについては、健診・検査の後の指導、フォローが非常に重要。検査自体は既存のドックで既に行われているものも多いが、ドック実施後は近医を受診して終了となってしまいがち。そうではなく、健康寿命をいかに伸ばすかという視点、既存の機能を維持・改善するために必要な体験・経験につなげるという位置付けのドックが必要。
- ・ 生活習慣病対策として、従来のドックより若年層を対象にしたドックも必要ではないか。
- ・ 今後リタイア層が多くなる中で、それらの層が要介護状態となり介護サービスの「お客さん」にするのではなく、活躍していただくという社会にしていく

ことが重要。そのためには、健保と国保のつなぎ目をスムーズにすることや、市民が働き続ける場を提供することが重要。ラグーナ地域で展開される本基本計画にも、市民が活躍し続ける場、社会貢献し続ける場としての内容を盛り込んで欲しい。

- ・ このような協議会形式だけではなく、地元企業同士等でのボトムアップの議論も必要ではないか。また、まちづくりの専門家であるデベロッパーの意見も必要と思われる。
- ・ 蒲郡市の特徴、ポテンシャルを踏まえた計画であると思われるので、既存の市民、住民等が満足でき、更に新たに参画する方々も夢を抱けるプランになるとよい。

(カ) 事務連絡

- ・ 事務局より、第3回協議会の開催予定を説明

(終了)